

陳 情 文 書 表

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第182号（8. 2. 10） 全ての子供たちへの行き届いた教育を目指し、35人以下学級の前進、教育費の軽減、教育条件の改善を求める陳情</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子供たちの教育を受ける権利を守るため、また、本務以外の業務で学校全体が疲弊することを避けるためにも、年度途中に生じる欠員を速やかに補充できるような制度の見直しをすること。中学校の35人学級を早期に実現すること。</li> <li>2. 市立幼稚園の3年保育実施園を早急に広げること。</li> <li>3. 教員が子供たちと向き合えるよう、また、勤務時間内に教材研究や事務作業を終え退勤できるように、教員一人あたりの「授業持ちコマ数」を設定して、それが可能な人的配置を行うこと。</li> <li>4. 国・神戸市の責任で、中学校・高校での35人学級を早期に実現するとともに、「20人学級」を展望して、少人数学級をさらに前進させること。</li> <li>5. 本来あるべき特別支援教育を行うことができるよう、特別支援学級の定数を、現在の8人から5人以下に引き下げるよう国に強く求めること。また、当面の間は、神戸市独自で5人以下に1人、正規の教員を担任として配置すること。</li> <li>6. 特別支援学校の過密化に対応すべく、新設校又は分校の設置を行うこと。</li> </ol>
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市中央区 ゆきとどいた教育をすすめる神戸の会 飯塚 直人 ほか1名 その他署名者あり（申告数1,849名）</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>教育こども委員会</p>

2026年2月10日

神戸市会議長あて

陳情者

住所 神戸市中央区

ゆきとどいた教育をすすめる神戸の会

氏名 飯塚 直人 (

) 代表 口頭陳述人

住所 神戸市中央区

ゆきとどいた教育をすすめる神戸の会

氏名 橋 和雄

## すべての子どもたちへのゆきとどいた 教育をめざし、35人以下学級の前進、 教育費の軽減、教育条件の改善を求める陳情

陳情趣旨

政府は「GIGAスクール構想」に基づく教育のICT化のために多額の予算をつけていますが、一人ひとりのこどもが大切にされる、ゆきとどいた教育を実現するために急ぐべきは、教職員定数の抜本的改善です。これは、深刻な教職員未配置（「教育に穴があく」）問題解決のためにも、不可欠で喫緊の課題です。

子どもたちは、明日の神戸を担う地域の宝です。少子化の進行や神戸市からの人口流出が危惧されている今、豊かな学校教育や子育てしやすい街づくりのための方策は喫緊の課題です。このような観点から、神戸市立幼稚園・小学校・中学校・支援学校について次の事項を求めます。

少人数学級は、子どもたちの健やかな成長発達のために必要不可欠な教育条件です。2025年度から小学校は全学年で35人学級が実現しましたが、中学1年生の少人数学級に限れば、全国の政令市で実施されていないのは、神戸市・大阪市・堺市の3都市のみとなっています。

子どもの家庭における経済格差が教育格差にならないような保護者負担の軽減も行政の大きな課題です。

私たちは、「教育日本一」をめざす神戸市だからこそ、教育条件の改善をいっそう進められるよう以下の項目について陳情します。1849筆の署名も提出します。

## 陳情事項

1. 子どもたちの教育を受ける権利を守るため、また、本務以外の業務で学校全体が疲弊することを避けるためにも、年度途中で生じる欠員を速やかに補充できるような制度の見直しをしてください。中学校の35人学級を早期に実現してください。
2. 市立幼稚園の3年保育実施園を早急に広げてください。
3. 教員が子どもたちと向き合えるよう、また、勤務時間内に教材研究や事務作業を終え退勤できるように、教員一人あたりの「授業持ちコマ数」を設定して、それが可能な人的配置を行ってください。
4. 国・神戸市の責任で、中学校・高校での35人学級を早期に実現するとともに、「20人学級」を展望して、少人数学級をさらに前進させてください。
5. 本来あるべき特別支援教育を行なうことができるよう、特別支援学級の定数を、現在の8人から5人以下に引き下げるよう国に強く求めてください。また、当面の間は、神戸市独自で5人以下に1人、正規の教員を担任として配置してください。
6. 特別支援学校の過密化に対応すべく、新設校または分校の設置をおこなってください。

署名提出あり:申告数 1,849筆